



版

# 認知症老人の発見・保護訓練

県下初 建部地区で地域力試す

「高齢者が中心となった訓練は、全国的にも珍しい取り組みとして注目されたい。」

同日地区では、数年前に高齢者が行方不明になり、捜索の結果、遺体が発見された不幸な出来事があった。三年前、区長が中心となり「高齢者が行方不明になった場合、どうしたらいいか」という問題が、またしてもあふがふがと湧きあがっている。身長一メートル五センチ、体重五十キロほどの、各町に暮らす高齢者が、訓練役や見守り役として参加していた。総勢約二百人におよぶ訓練で、約三時間、午前九時から午後一時まで行われた。

同日地区では、数年前に高齢者が行方不明になり、捜索の結果、遺体が発見された不幸な出来事があった。三年前、区長が中心となり「高齢者が行方不明になった場合、どうしたらいいか」という問題が、またしてもあふがふがと湧きあがっている。身長一メートル五センチ、体重五十キロほどの、各町に暮らす高齢者が、訓練役や見守り役として参加していた。総勢約二百人におよぶ訓練で、約三時間、午前九時から午後一時まで行われた。

訓練役は、各町長のほか、自治会連絡網の役員や、見守り役として参加した。総勢約二百人におよぶ訓練で、約三時間、午前九時から午後一時まで行われた。

参加住民 声を掛ける。参加住民 声を掛ける。参加住民 声を掛ける。

07/19

この日は朝から雨天となり、地区内を歩くと、曇り空が広がり、暗い雰囲気があった。警察からは「高齢者の認知症の発見、保護訓練は、全国的にも珍しい取り組みとして注目されたい。」

高齢者の専門家が、この日は朝から雨天となり、地区内を歩くと、曇り空が広がり、暗い雰囲気があった。警察からは「高齢者の認知症の発見、保護訓練は、全国的にも珍しい取り組みとして注目されたい。」

「認知症老人の発見・保護訓練は、全国的にも珍しい取り組みとして注目されたい。」

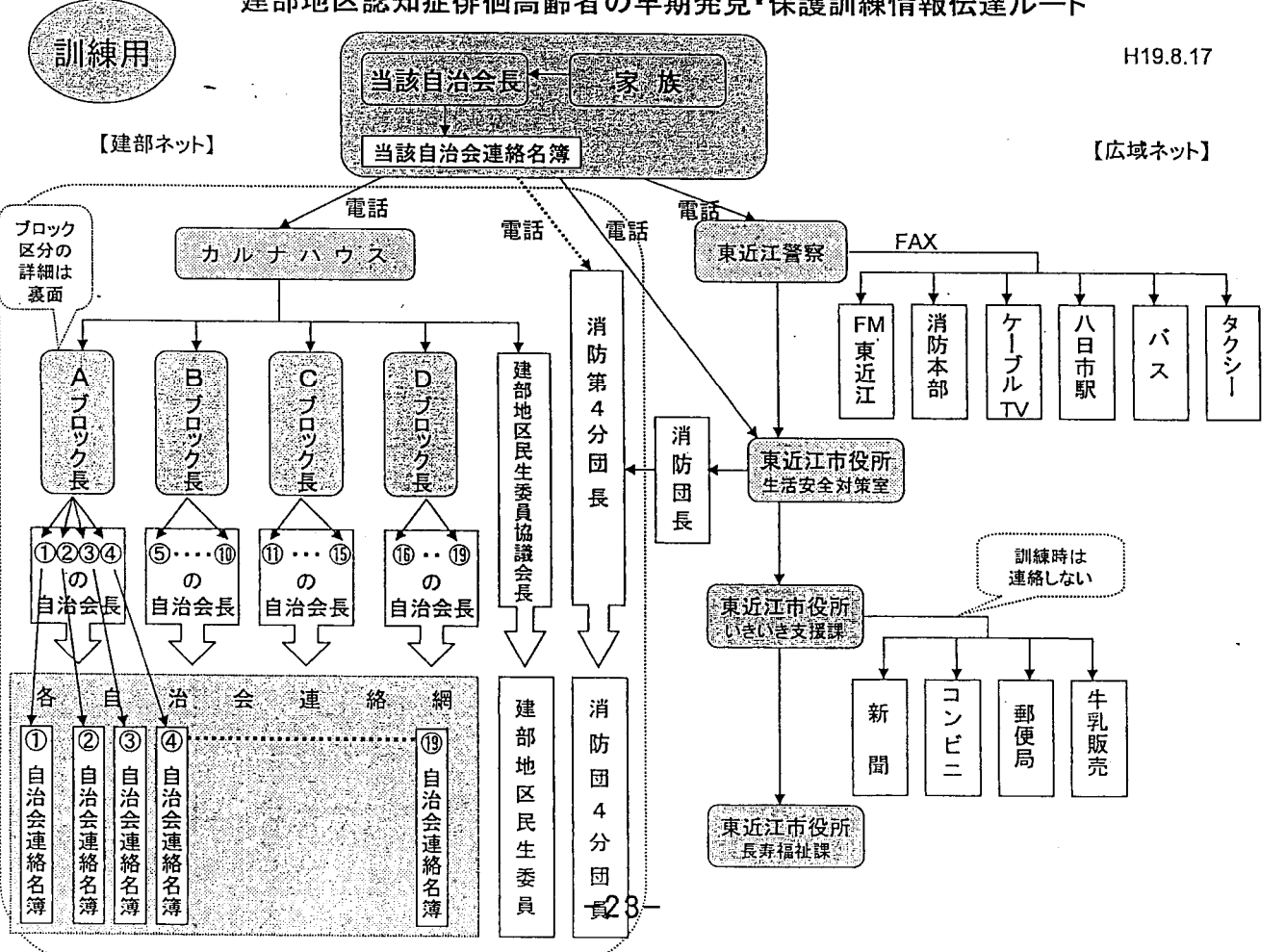
高齢者の専門家が、この日は朝から雨天となり、地区内を歩くと、曇り空が広がり、暗い雰囲気があった。警察からは「高齢者の認知症の発見、保護訓練は、全国的にも珍しい取り組みとして注目されたい。」

一人の徘徊役の後を追った。制限時間内には、徘徊役を保護できなかった。参加者は、事前に徘徊役の名前や特徴を事前に確認していたが、意外にも見つからなかった。徘徊役は、早朝の時間帯に徘徊し、発見された。保護できなかった。

## 記者の目

住宅街でも認知症老人の徘徊が頻りに起こる。発見されたが、保護できなかった。徘徊役は、早朝の時間帯に徘徊し、発見された。保護できなかった。

## 建部地区認知症徘徊高齢者の早期発見・保護訓練情報伝達ルート



H19.8.17

【広域ネット】

訓練用

【建部ネット】

訓練時は連絡しない

# 私たちにできること

## 認知症啓発授業

### 八幡東中3年生 メイト講師に 理解から行動へ、家庭・地域へ

【近江八幡】近江八幡市で活動する十七人(登録二十人)が東近江田町で二十日、認知症啓発授業が開かれ、三年生(全五クラス)が認知症についての理解を深めた。

「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」をめざす同市が、昨年からの取り組みとして今年も、市内各町に巡回して行われた。今年も、全町に先がけて先月東近江地域に誕生したばかりのキャラバン・メイト(全七人)が講師を務めた。

この日の授業は、先行して行われた基礎知識を学ばせ、二時限の授業で、病院からグループホームに移って暮らすこと、行く認知症のお年寄りの様子をレポートしたビデオを鑑賞したあと、生徒七人程度がキャラバン・メイト二人がグループになって、その感想や認知症についてわかったこと、疑問や質問などについて意見を交し、発表した。

生徒たちがビデオで受けた感動は、そのままグループワークへ。

「認知症の人は何もできないと思ってしまうが、それが違うんだ」と、講師が話した。認知症の人には、まだできることがある。自分ができることを、家族や地域にも伝えてあげよう、というねらいで啓発授業を実施した。

市内各校での実施も検討中だ。

【勉強したことを生かして、知識を行動に。みんながスタートになって広げていってほしい」と付け加えた。

市健康推進課では、大人よりの痴呆症に対する先入観のない中学生の方が、早期に、効果的に、正しく理解して、正しい行動が、家庭や地域にも広げることができるといっている。

「勉強したことを生かして、知識を行動に。みんながスタートになって広げていってほしい」と付け加えた。



グループワークに取り組む生徒とキャラバンメイト

「認知症の人には、まだできることがある。自分ができることを、家族や地域にも伝えてあげよう、というねらいで啓発授業を実施した。」

生徒は、二十六日にはグループホーム職員から現場の話を直接聞いて、さらに理解を確かめるものとする。全五時限の授業終了後は、全員が認知症について考えた。

### 痴ほうになっても安心して暮らしたい

## 自治会単位での学習会がスタート

### 八日市市 識り隊・報せ隊が出張講義

八日市市の自治会単位で「痴ほうの学習会」が開かれ、痴ほうになっても安心して暮らせるまちへ、市民が理解を深めている。

痴ほうについて正しい理解を深める市民活動団体「識り(し)隊」・「報せ(は)隊」を編成し、自治会の集会所などで出向いて、講演やワークショップ

「痴ほう」の学習会が開かれ、市民が理解を深めている。

「痴ほう」になっても安心して暮らしたい。市民が理解を深めている。



ワークショップに取り組む大塚自治会のみなさん

また、葵町自治会では滋賀地方自治研究センターの北川副理事長が講演し、参加した三十二人は、高齢社会が進む「痴ほう」の人数が増える状況を改めて認識し、病気の「痴ほう」の物忘れ、「老け」による物忘れの違い、早期発見と関係機関との連携の大切さなどを学び、同自治会での「支えあいのまち」づくりについて考えた。

# 認知症高齢者の接し方学ば



## 近江八幡市が企業研修会

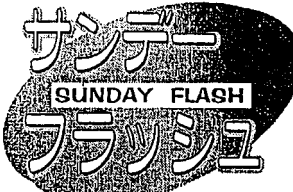
認知症の高齢者にごう接すればいいか。介護する世代の20歳〜50歳代に認知症を正しく理解してもらおうと、近江八幡市は7日「認知症企業啓発研修会」を市内のマイカルタウン2番街で開き、マイカルの従業員55人が参加した。同市が2004年度から認知症の啓発のため、市内の在宅介護支援センターに委託している「認知症啓発研修」の一環。厚生労働省が全国的にも先進的な取り組みと

注目しており、同省担当者が視察に訪れた。講師に招いた特別養護老人ホーム・安土やすらぎの郷の岡山かよ子業務課長は「高齢者が売り場のバナナを勝手に食べた場合、どうするか」と、店で起りうる具体的事例を挙げて説明。「認知症は単なる物忘れではない。その場の状況判断ができなくなり、自分の行為を忘れて、生活に支障がでる病気」と解説したうえで「まず目線を合わせ、話を聞

いてあげてほしい」と理解を求めた。従業員らは「認知症のお客さんが来たらどう連絡すればいいか」など質問し、意欲的な様子だった。同市は昨年度は郵便局、警察署、小学校など10カ所、本年度は5月にJAGグリーン近江で研修会を開いた。本年度中に企業などで残り6カ所の開催を予定している。視察に訪れた厚生労働省の池田武俊認知症対策推進室長補佐は「職域で勉強会を開くのは珍しい。全国にも広めていきたい」と話した。

### 地域福祉の原点

## ご近所の助け合い



「近所ごとの名前と顔をご存知ですか。人間関係の希薄化による地域機能の低下が近年問題となり、住民自身が立ちまわらへいへ活動する。近所の底力」が注目されている。そのうちなか「住み慣れた自然を暮らし続けたい」という志を遂げる自立生活で、育児を応援する助け合いの理想郷に取り組みを進める川町の栗見新田を取材した。

【栗見新田】  
少子高齢化のなか、いよいよ、相談する相手も減り、子育てが手ごたえなく、育児疲れがひどい。我が子を虐待する母親・父親が急増し、連日のように悲しげにニュースが飛び交っている。

栗見新田では、困った時は「助け合い」の力を借りようという意識が根付いており、地域の連携を深める「小地域ネットワーク」が、子育て支援の場として機能している。これは、子育て支援の場として機能している。これは、子育て支援の場として機能している。

助け合いのネットワーク「弱者支援対策マップ」をつくる区民ら  
栗見新田では、困った時は「助け合い」の力を借りようという意識が根付いており、地域の連携を深める「小地域ネットワーク」が、子育て支援の場として機能している。これは、子育て支援の場として機能している。

ネットワーを構築する。この事業が、高齢者世帯や小さな子どもがいる家庭への声かけで、子育て支援の場として機能している。これは、子育て支援の場として機能している。

「近所ごとの名前と顔をご存知ですか。人間関係の希薄化による地域機能の低下が近年問題となり、住民自身が立ちまわらへいへ活動する。近所の底力」が注目されている。そのうちなか「住み慣れた自然を暮らし続けたい」という志を遂げる自立生活で、育児を応援する助け合いの理想郷に取り組みを進める川町の栗見新田を取材した。

百聞を一見にする

「ふるさと絵図」



大塚町で制作中

ふるさと絵図の作成は、NPO法人蒲生野善現倶楽部と、人と自然を考える会が、住民自身が地域資源や人材を見つめ直し、自活の道を探る地域元発型とした事業として企画したものだ。

高島市では絵図作りが活発で、東洋地域で本格的に始動したのは大塚町が初めて。身近な地域について一人ひとりが百科事典ほどの情報量を持つ大塚町老人会(安川善兵衛会長)有約30人が、主体的に取り組んでい

土田改 喜前の田んぼをたぬ池の縁子、農作業・家事にとろろ働いたことも時代、丁稚業公へ行き苦労したと、当たり前のたもつて風習の風習一年を通じて行われる行事・祭りのな、二つの話題から幾通りものストーリーが紡ぎ出される。

安川会長(右)は「話している、時間の経つのを忘れてしまつた」と微笑み、参加した住民も「道端で言葉を覚えてきたら」と切り出し、自分たちのみぞ知る昔の暮らしや、やがて消えていく暮らしを感じてきた。昨年十一月十五日、計四回にわたる講座を取り調べる、地域住民が語るなすべの語が「聞き書き集」に収められる。

そして、今年五月のなかで大塚町の歴史、地域の歴史を語り、絵図を完成させるまで。

上田さんは用意した地図を指差しながら昔の町並みを語る(あたりや学園所で)

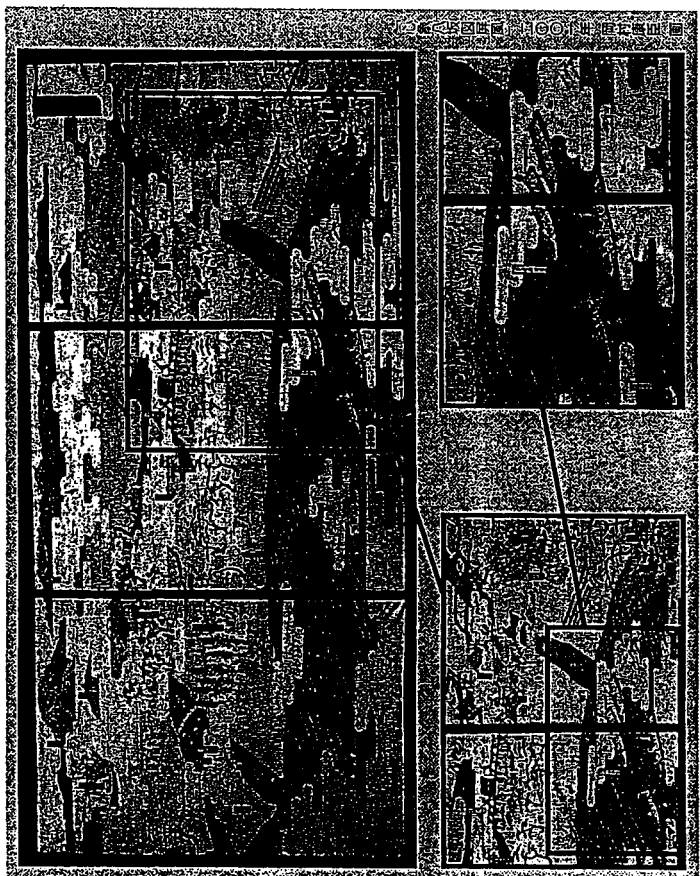
上田さんは「絵図は完成したばかりでは、酒用が重要」と強調して絵の中に込められたストーリーを語る。絵解きや地元の話り部に子どもたちが直接インタビューする、世代交流学習会などを提案する。

先輩たちの経験に耳を傾ける制作過程で、か、地を見つめ直す絶好の機会となり、世代をつなぐ絵図の存在が地域の絆を深める大きな財産である。滋賀県環境学習支援センターの井原尚司所長は「大塚町は聞き書き集は、地域で生活する人々のものがたり、自然の仕組みを作り上げていく、語り、上田さんとともに、絵図の完成を待つ。



「ふるさと絵屏風」をつくる

心象図法の紹介



「心象図法」の紹介

心象図法とは、心象を絵で表現する手法で、風景や人物、動物などを自由に描き、心象を表現する。この手法は、絵屏風や絵巻物などに用いられる。心象図法は、絵師の感性や想像力によって、様々な心象を表現することができる。心象図法は、絵師の心象を表現する手法で、風景や人物、動物などを自由に描き、心象を表現する。この手法は、絵屏風や絵巻物などに用いられる。心象図法は、絵師の感性や想像力によって、様々な心象を表現することができる。



# 自治体職員と地域プロデュース

## 一 誰が、何を元手に、何を、どんな仕組みで地域を支えるのか

滋賀地方自治研究センター副理事長北川憲司

\* 少子高齢化就労人口減少社会での地域像を念頭に、地域の把握と課題解決のための制度の活用を、地域の課題の共有化、地域の人材力の総合化を、使える者は何でも、法律違反でなければ何をしても良い。

\* 誰が(質の高い、低コストの人材)、何を(福祉を越えた地域課題を)、何を元手に(指定管理、ビジネス、介護保険)、どのような仕組みで(徴兵型と志願兵型の組み合わせた自治会と地域NPOの連携)支えるのかを、税金で食べさせてもらいながら自己研鑽ができる自治体職員がそれぞれの地域で考え続ける。

\* 空間軸、時間軸での地域把握力、地域全体をシームレスに見る力、動態視力、構想力、鳥瞰図で地域を見る力、軽いフットワーク、鮮度の良いアンテナ、いろいろな者をクロスするネットワーク力、それらの空間、およびプロセスデザイナーが自治体職員には期待される。

### \* 分野クロスの例

- 「介護保険ユーザーとサプライ、保険者の相互乗り入れ」
- 「NPOと地縁組織の相互乗り入れ」
- 「福祉、環境、農業、まちづくりなど他分野同士の相互乗り入れ」

- 「介護サービス活用による地域NPO」
- 「介護サービス活用による温泉街活用」
- 「介護サービス活用による里山保全」
- 「介護サービス活用による外国人支援」
- 「介護サービス活用による町並み保全」
- 「介護サービス活用による地域防災」

- 「伝統建造物保全地域保全と介護サービス、障害者雇用」
- 「退職サラリーマン地域デビューと介護サービス、障害者支援」
- 「野菜の地産地消と障害者雇用」
- 「バイオマス活用と障害者雇用」
- 「地域環境循環と介護サービス」
- 「まちづくり協議会と介護サービス、障害者支援」
- 「博物館活用による認知症ケア」
- 「図書館メンテナンスの障害者委託」
- 「グリーン購入と障害者雇用」
- 「農協と障害者雇用」

\* 自治体職員のロイヤリティは、行政組織に対してではなく住民のはず、今までの行政の視点、今までの延長で考えても良い結果は出ない、リセットが必要。

\* 市民は待てない、行政、社協、企業、住民組織、社福法人に人材がいるならすべてを活用する、その中でどのように成功体験を積んでもらうか考えている。